

令和 6 年 9 月 24 日現在

機関番号：34441

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02011

研究課題名（和文）医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目の研究

研究課題名（英文）Research on home helper observation items that can be utilized in medical, nursing and caregiver collaboration

研究代表者

和田 恵美子（Wada, Emiko）

藍野大学・医療保健学部・准教授

研究者番号：60585446

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：医療と福祉の専門職9名で観察項目の改善に向けての検討を行い、観察項目シート17項目の冊子を作成し、介護事業所10施設に3か月間パイロット研究を実施した。実施後の質問紙調査結果から、観察項目の効果（家族の生活状況、療養者の身体や心、身の回りの変化、介護への振り返りや優先順位、観察ポイントへの意識）は、8割強が肯定的な評価であった。観察項目シートの教育効果が立証されたと言える。改善点や負担感から今後の観察項目シートへの改良とICT化に向けての示唆が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

観察項目の評価では、観察の気づきに対して8割強が肯定的な評価をしていた。その内容は「色々な角度から利用者が理解できた」「利用者の体、心の変化に気づきやすくなった」「異常に気づくためによかった」等から、要介護高齢者やその家族の理解やいつもの違いの気づきにつながったと推察される。「ヘルパー間で情報共有しやすくなる」では、サービス担当責任者の意識の高さが見られ、連携強化にも繋がると考えられる。改善点があげられたことや紙ベースであることの負担感を今後の観察項目シートへの改良とICT化にしていきたい。

研究成果の概要（英文）：Nine medical and welfare professionals studied ways to improve the observation items, prepared a booklet of 17 observation item sheets, and conducted a three-month pilot study at 10 nursing care facilities.

Based on the results of the post-implementation questionnaire survey, the effectiveness of the observation items (family living conditions, the caregiver's body and mind, changes in personal surroundings, reflection on and priorities for care, and awareness of observation points) was positively evaluated by more than 80% of the respondents. It can be said that the educational effect of the observation item sheet was proven. Suggestions for future improvements to the observation item sheets and the use of ICT were obtained based on the points for improvement and the sense of burden.

研究分野：在宅看護

キーワード：ホームヘルパー 多職種連携 観察項目 サービス担当責任者

1. 研究開始当初の背景

我が国の医療・介護政策の1つである「病院から在宅へ」という流れにおいて、在宅で介護を要する高齢者や障害者の増加への対応は喫緊の課題である。とりわけ、身近で高齢者や障害者とその家族に訪問介護として関わるヘルパーから医療職への情報提供は、異常の早期発見に結び付く重要項目であることが多い。我が国の全国調査によれば、在宅医療と介護の連携の場で情報発信の多い職種として、看護師(24%)に次いでヘルパー(20%)があげられ、医師(18%)、介護支援専門員(16%)の順に報告されている(情報システムの共通基盤の在り方に関する調査報告書 東京大学高齢社会総合研究機構, 2015)。異常の早期発見につながる情報提供のできるヘルパーも存在するが、療養者の褥瘡の悪化の兆候、腹痛の訴えに気づきつつも連絡が遅れ、重症化し入院に至ったケースも報告されている¹⁾。ヘルパーへのインタビュー調査から、ヘルパーの情報発信の阻害要因は、問題発見が苦手であること、医療への不安、情報の言語化への苦手意識が明らかとなっている²⁾。そこで申請者は、在宅療養支援に10年以上従事する医療・福祉職である12職種(在宅医師、精神科医師、訪問看護師、精神科訪問看護師、在宅歯科医師、在宅歯科衛生士、作業療法士、理学療法士、薬剤師、在宅訪問管理栄養士、PSW、MSW)44名がヘルパーから得たい観察内容のインタビュー調査を実施し、観察項目を抽出した³⁾。さらに、研究の分析結果から観察項目の対象者を虚弱高齢者と軽度の障害者、要介護者と重度の障害者、認知症と精神症状のある方の3つに分類し、ヘルパーの連携先の職種をそれぞれに選定した^{4) 5) 6)}。

ヘルパーの観察項目の指標は、ほぼ今回の研究で整理された(図1)。ただし、図1は観察内容を抽出した段階にとどまり、観察指標として活用するためには、新たな知見を得て、医療と介護の専門家により検証をしていく必要がある。先行文献では、ヘルパーの観察指標として他国と比較した内容の研究はなく、その教育効果を立証したものもない。教育効果を検証し、実現化に向けた観察項目の指標の開発が急がれる。

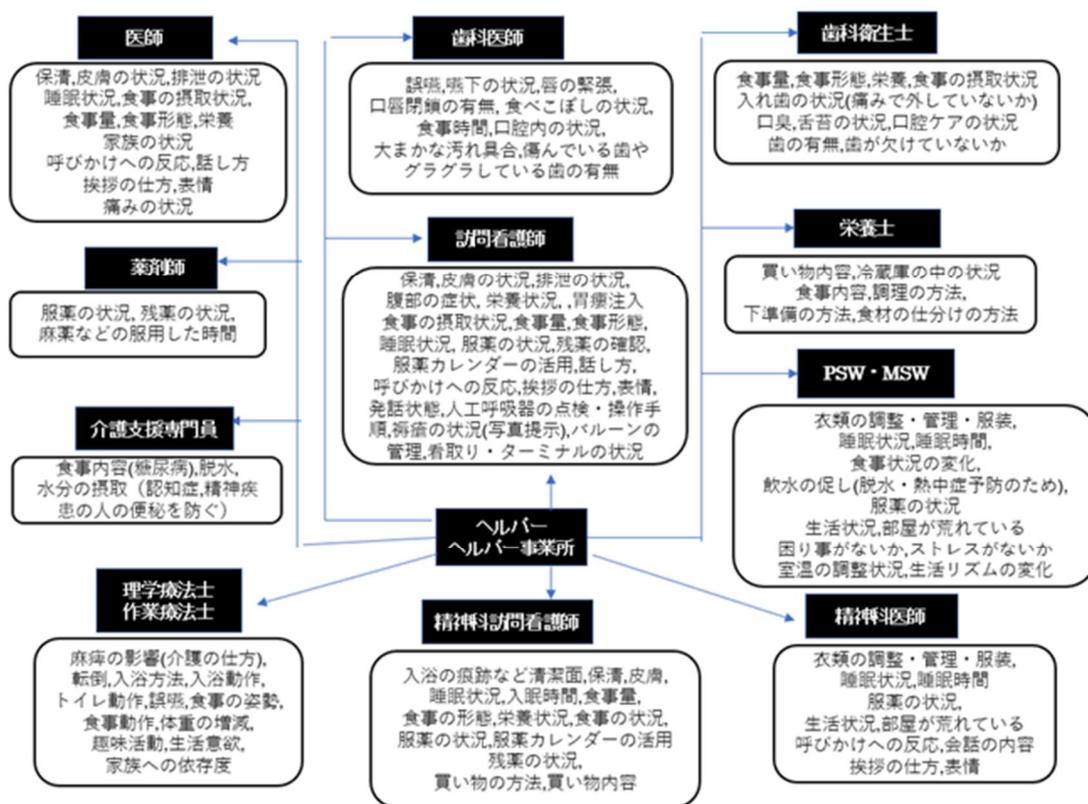


図1

2. 研究の目的

本研究では、申請者が抽出した『在宅ケアチームの多職種がヘルパーから得たい観察項目』を新たな知見を得て完成度の高い内容に開発し、ヘルパー事業所で3か月間活用後、ヘルパーの教育カリキュラムとしての教育効果を立証することである。

3. 研究の方法

1) 研究対象

介護事業所10施設の50人のヘルパー(ヘルパーの内訳: サービス担当責任者(以下、サ責)13人、ヘルパー37人)

2) データ収集方法

研究依頼と説明は郵送による承諾が得られた後に、対象施設の施設長に行き、療養者の選出や活用いただく観察項目シートの選択は施設に委ねた。観察項目シート(図3)は、必要数を宅配便で送付し、3か月の活用後に返送いただいた。観察項目シートの返却後に、質問紙調査用紙とアンケート回収ボックスを送付し、郵送にて回収した。回収をもって同意とした。

3) 測定・分析方法

活用した観察項目シートの内容は、施設の療養者毎に Excel シートに整理した。調査項目は、性別、年齢、訪問介護経験、勤務形態、仕事への思いや感じ方、各観察項目への評価は5段階のリッカートスケールで、観察項目活用に関する自由記載欄を設けた。

分析はヘルパーとサ責との違いを調べるために、分散の有意差をZ検定で確認し、分散に有意差がない場合は対応のないt検定、有意差が見られた場合はWelchの検定を行った。

倫理的配慮は、京都看護大学倫理委員会承認を得た(第202203)。

4. 研究成果

1) 新たな知見を得た観察項目30の援助内容

図1の観察項目の指標に対して、関西地域のサービス担当責任者、介護支援専門員、訪問看護師、栄養士、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師の9名と検討を重ねて、新たな知見を得た観察項目30項目作成した。この観察項目は、援助項目、チェック項目、観察してもらいたい項目、自由記載(いつもとの違いなど)観察が必要な理由と予測されるリスク、情報の連絡先を**ポスター A1サイズ**にまとめた。情報の共有のために、各々の事業所の壁に貼っていただいた。

観察項目30項目の内容は、**身体機能・起居動作**(麻痺や拘縮、座位保持、歩行、立ち上がり、洗身入浴・清拭・洗髪・洗面)、**生活機能**(移乗や移動、排尿トイレ利用、排尿おむつ着用、排便トイレ利用、排便おむつ着用嚔下、食事摂取、口腔清拭、上衣の着脱、ズボン等の着脱、外出頻度)、**認知機能**(意思の伝達、毎日の目標を理解、今の季節を理解、睡眠、昼夜逆転睡眠)、**社会生活への適応**(薬の内服、日常の意思決定、²¹買い物、²²簡単な調理、²³室内の状況、²⁴家族介護者)、**医療的ケア**(²⁵レスピレーター 人工呼吸器、²⁶経管栄養 胃瘻注入、²⁷褥瘡の処置、²⁸膀胱留置カテーテル、²⁹疼痛への対応、³⁰緩和ケア・看とり)に分類した。

2) 観察項目シート17項目

ヘルパー事業所で、ケアの際に使用していただく**観察項目シート17項目**は、厚生労働省の老計10号の訪問介護員の援助項目に基づいた16項目に、医療処置を必要とする方の医療的ケアの項目を追記して作成した。17項目の詳細は、**生活援助3項目**(掃除/洗濯や衣類の整理・補修、一般的な調理、配下膳、買い物・薬の受け取り)、**身体援助13項目**(排泄介助トイレ・ポータブルトイレ利用、排泄介助おむつ交換、食事介助、清拭 全身清拭・手浴及び足浴、洗髪、全身浴入浴介助、洗面等、身体整容 日常的な行為としての身体整容、移乗・移動介助 車いすの介助、移乗・移動介助 その他補助具 歩行器、杖の介助、通院・外出介助、起床や就寝介助、服薬介助)に**医療的ケア**を追記し**17項目**とし冊子(30枚/1冊:複写式)を作成した。観察項目シートの医療的ケア(図3)を例にとると、観察してもらいたい☑項目と自由記載欄を設けて、新たな知見を得た観察項目30の援助内容から、観察が必要と思われる援助項目を抜粋して作成した。

3) 3か月間の観察項目シートの活用結果

(1) いつもとの違いを感じた時の回数

利用された観察項目シートのチェック回数は、排泄介助 トイレ・ポータブルトイレ(296)、排泄介助 おむつ交換(421)、食事介助(277)、清拭(全身清拭)・手浴及び足浴(0)、洗髪(2)、全身浴入浴介助(48)、洗面等(259)、身体整容 日常的な行為としての身体整容(158)、移乗・移動介助 車いすの介助(83)、移乗・移動介助 その他補助具(歩行器、杖)の介助(17)、通院・外出介助(91)、起床や就寝介助(28)、服薬介助(67)、掃除/洗濯や衣類の整理・補修(17)、一般的な調理、配下膳(112)、買い物・薬の受け取り(14)、医療的ケア(1100)となった。

(2) 利用された観察項目シート

利用された観察項目シートは、清拭(全身清拭)・手浴及び足浴の項目以外の16項目の利用があった。なかでも、排泄介助トイレ・ポータブルトイレ、排泄介助 おむつ交換、食事介助、医療的ケアは利用頻度が高いものであった。

4) 3か月間の観察項目シート活用後の質問紙調査結果

(1) 回答者の属性

2023年6月1日~2023年10月5日の期間に、10施設の介護事業所(3か月間)で、合計22

名の療養者に観察項目シートの活用があった。

表 1. 回答者の属性 1 (人)

職種		性別			常勤・非常勤			事業所			
ヘルパー	サ責	女性	男性	未回答	常勤	非常勤	未回答	A	B	C	D
37	13	35	14	1	29	19	2	14	14	13	9

(2) 観察項目シート利用による現場での評価

観察項目シートの活用効果への評価では、 家族の生活状況の変化や異常を意識しやすくなる、 身体の状態の変化や異常を意識しやすくなる、 心の状態の変化や異常を意識しやすくなる、 利用者の身の回り(設備、薬の場所など)の変化や異常を意識しやすくなる、 ヘルパーが仕事の仕方を振り返りやすくなる、 介護をする中で優先順位をつけやすくなる、 観察するポイントを意識しやすくなる、 技術や知識習得のきっかけになるの ~ を5段階のリッカートスケールで評価した(図2~図5)。「よく当てはまる 30%」「やや当てはまる 54%」と、8割強が肯定的な評価をしていた。

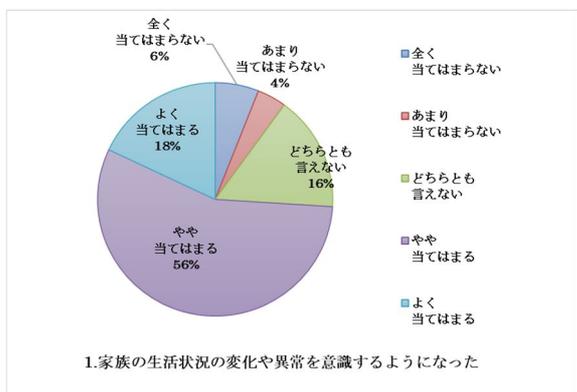


図 2

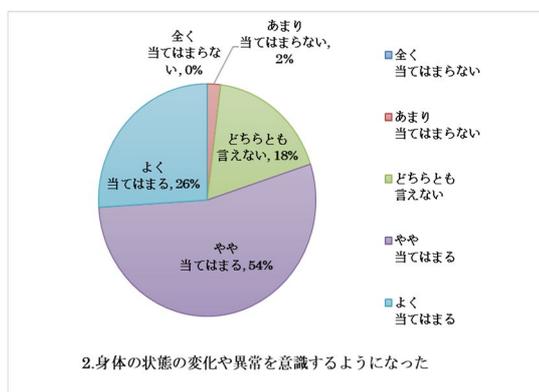


図 3

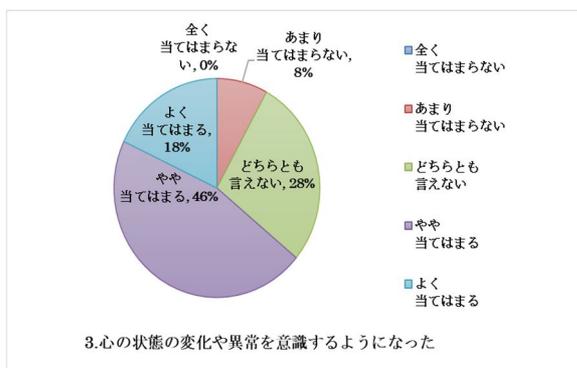


図 4

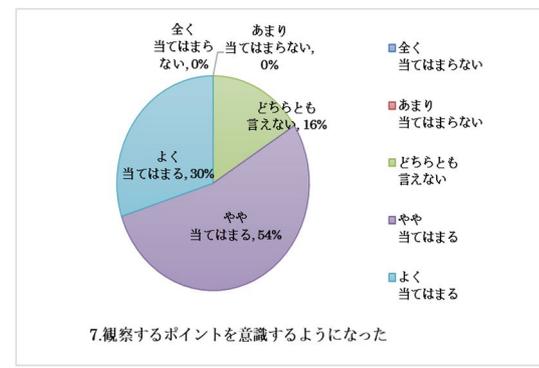


図 5

ヘルパーとサ責の違いについて検討したところ、「ヘルパー間で情報共有しやすくなる」については、F検定を行った結果、等分散が認められず Welch の検定を行い、サ責の方がヘルパーよりの有意に高い評価が得られた ($t(43.15)=2.866, p=.006$)。「技術や知識習得のきっかけになった」についても等分散が認められず、Welch の検定を行い、サ責よりもヘルパーの評価の方が高い傾向にあった ($t(27.58)=1.865, p=.073$)。その他の項目に関する評価はヘルパーとサ責の間では有意な差が見られなかった。

(5) 自由記載欄の回答(原文のまま抜粋)

ア. 観察項目シートがあった方がよい。

- ✓ 観察項目により、観察すべきポイントがよくわかり、今まで以上に意識的に利用者の変化を観察できました。
- ✓ 意識して観察を行ったので、利用者の変化に気づくことができた。
- ✓ 情報共有しやすいと思います。
- ✓ あった方がわかりやすく、抜けも少ないと思います。
- ✓ 観察する重要度も理解できてきた。
- ✓ 色々な角度から利用者様のことが理解できる。
- ✓ 自分では一方向しか見ることができなかったが、他方向から見ることができ、日々反省することがあった。
- ✓ 各現場に観察項目があると、観察の意識だけでなく、他のヘルパーの気づきや異常を確認して事故を防ぐ効果もあると思いました。
- ✓ 経験がまだ浅いので、こういうところ(義歯、買物、排せつ等)も観察したらより良いサービスができるようになるという発見にもなりました。

イ. 改善点

- ✓ 重複する項目と当てはまらない項目あり、自由欄があっても良いかなと思った。
- ✓ 内容については今後、自由記述欄、異常なし欄(チェックボックス)があっても良いと思う。
- ✓ 1回1ページではなく、何回(何日)か分を1ページにまとめて変化が見てすぐわかるとよい。
- ✓ 1週間を一目で見られるような表なら皆が前日、前々日の様子も見られるのではと思いました。

ウ. 負担感

- ✓ ケアに時間がかかったときは記入の時間がかかって大変でした。
- ✓ 利用者様によっては共有ノートもありましたので、同じ報告を3回することになるため、時間的に負担でした。
- ✓ 利用者、事業所共に保管物が増えてしまう。

4) 考察・結論

現場で活用していくには、課題はあるが、観察項目シートの教育効果が立証されたと言える。改善点や負担感から今後の観察項目シートへの改良とICT化に向けての示唆が得られた。訪問看護師やケアマネジャーからの評価も今後検証していく必要がある。

参考文献

- 1) 和田恵美子:在宅療養継続における家族介護者の介護力の源となるもの.日本家族看護学会ジャーナル, 査読有,23(1):15-25(2017)
- 2) 和田恵美子:ホームヘルパーの情報発信の実態把握と阻害要因への対策 医療と介護の円滑な連携にむけて.日本在宅ケア学会誌,査読有,22(1):65-73(2018)
- 3) 和田恵美子:医療と看護と介護の連携に活かされるホームヘルパーの観察項目に関する研究.ファイザーヘルスリサーチ振興財団抄録集 25, 27-32,2018(ファイザーヘルスリサーチ振興財団助成金 115万円による研究:2016.12~2017.12)
- 4) Emiko Wada: Observation points necessary for preventing frail elderly care-recipients from reaching a state requiring nursing care - With a spotlight on home caregivers involved in the elderly recipients' daily life support care -.The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Poster P105, February 28-29, 2020, JAPAN
- 5) 和田恵美子, 藤原奈佳子, 廣田美喜子:医療と看護と介護の連携に活かされる ホームヘルパーの観察項目の研究.第44回日本看護研究学会学術集会.示説.日本看護研究学会雑誌 42(3)P622,2019.8
- 6) 和田恵美子, 藤原奈佳子, 廣田美喜子:精神症状のある療養者の関わり方と 観察項目に関する研究 日常生活援助に関わる ホームヘルパーに注目して .第44回日本看護研究学会学術集会.口頭発表.日本看護研究学会雑誌 42(3)P456,2019.8

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 和田恵美子、千葉宏毅、藤原奈佳子、丹野克子	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 在宅におけるホームヘルパー他職種連携課題の概念構造から抽出した観察項目の特定ー療養者の異常の早期発見を目指してー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 84-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐浦 隆一 (saura ryuichi) (10252769)	大阪医科薬科大学・医学部・教授 (34401)	
研究分担者	結城 康博 (yuki yasuhiro) (10458622)	淑徳大学・総合福祉学部・教授 (32501)	
研究分担者	藤原 奈佳子 (fujiiwara nakako) (30178032)	人間環境大学・看護学部・教授 (33936)	
研究分担者	三島 瑞穂 (mishima mizuho) (60613099)	宇部フロンティア大学・看護学部・准教授 (35506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------